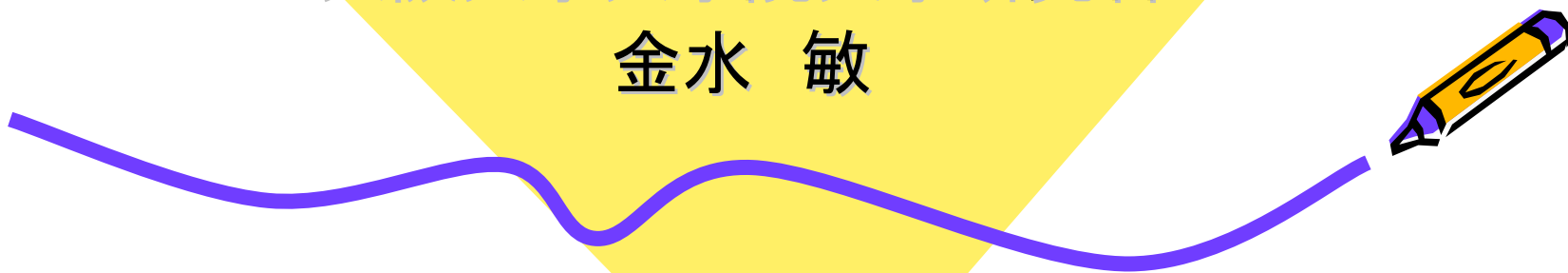


「役割語」研究と 社会言語学の接点

大阪大学大学院文学研究科

金水 敏

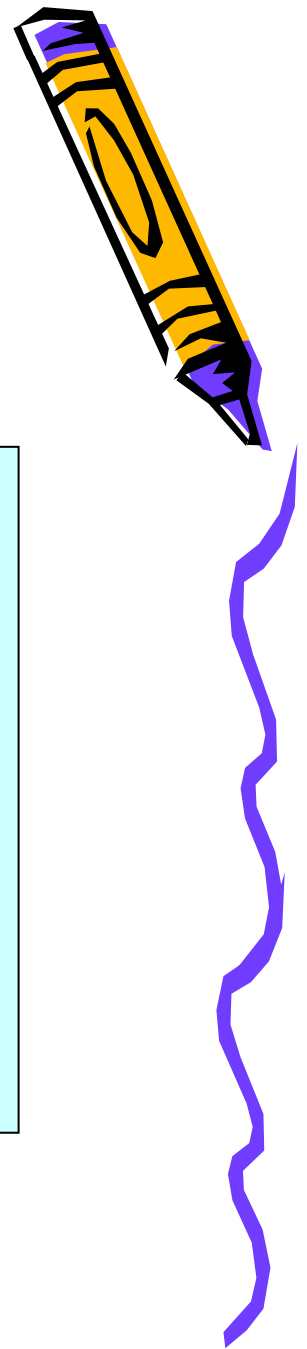


役割語の定義

- ある特定の言葉遣い(語彙・語法・言い回し・イントネーション等)を聞くと特定の人物像(年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等)を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができるとき、その言葉遣いを「**役割語**」と呼ぶ。

(金水 2003, 205頁)





役割語＝ スピーチスタイルと属性の連合

スピーチスタイル

- 語彙
- 語法
- 言い回し
- イントネーション
- 声質
- 等々...



属性

- 性別
- 年齢
- 社会的階層
- 職業
- 出身地、国籍
- 性格
- 等々...



役割語を支えるシステム



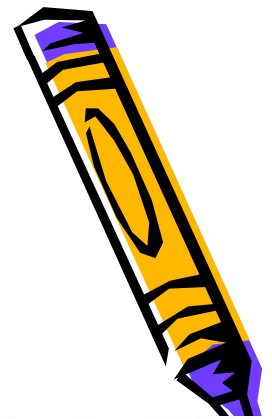
表現
(コミュニケーション)

認知
(個)

知識の共有
(共同体・社会)



文化的ステレオタイプ



文化的ステレオタイプ
(ステレオタイプの知識)
幼少期に獲得される。
自動的情報処理過程に従う。

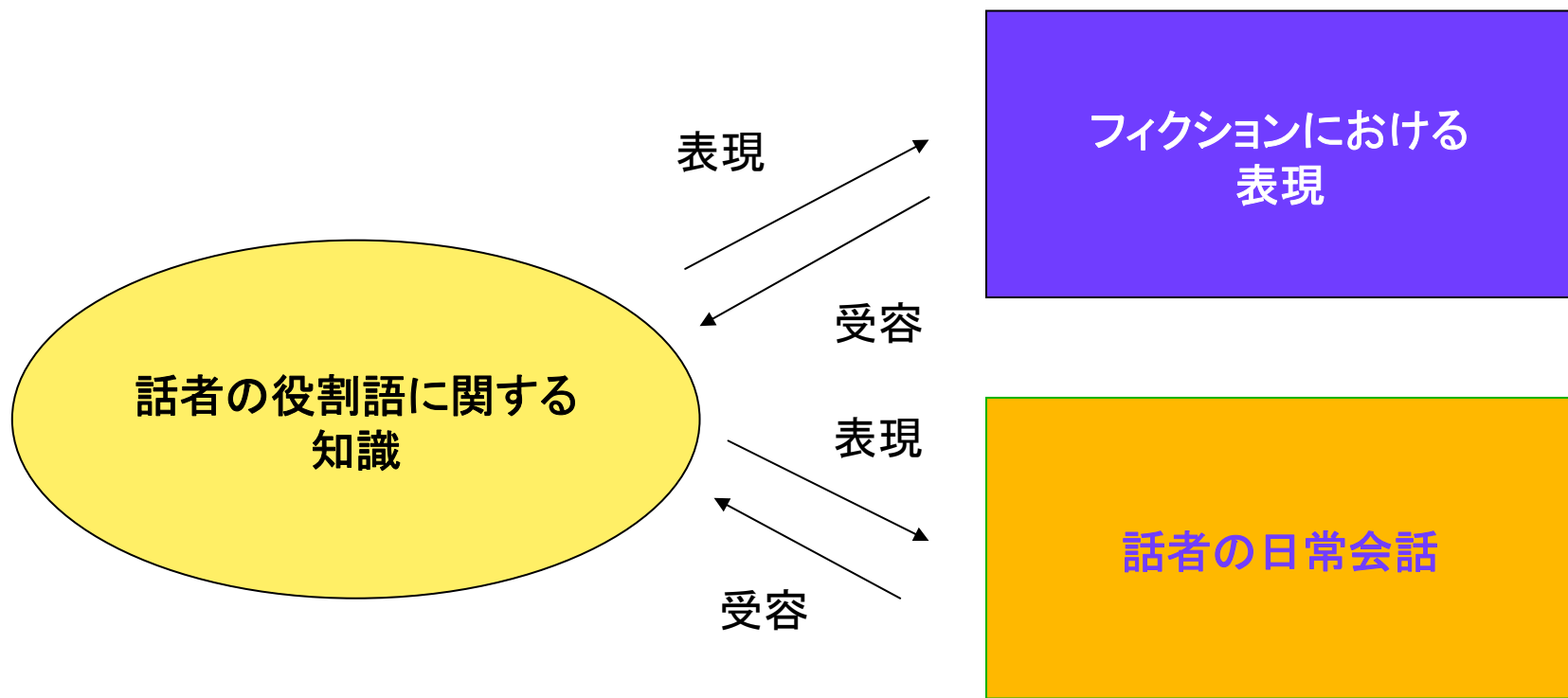
個人的信念
成長の過程で自分で獲得する。
統制された情報処理過程に従う。

図18 デヴァイン (1989) の分離モデル

上瀬 (2002)より



「役割語」の本質と顕現



日本語の役割語によって 表される属性

- 年齢：幼児、少年・少女、青年、壮年、熟年、老年等
- 性別：女、男、男性的女性、女性的男性等
- 社会的階層・職業：下層・上層、知識人、芸術家、事務員、肉体労働者、農民、漁民、商売人、やくざ、学生、暴走族、体育会系等（ホワイトカラー vs. ブルーカラー、品格、教養、都会性等）



(承前)

- 地域性：都会人、田舎者（方言話者、東部方言系、西部方言系）、大阪人・関西人、九州人（博多者、鹿児島人等）、土佐人等
- 国籍・人種：外国人（西洋人）、中国人、黒人、“アメリカ・インディアン”等
- 時代：武士、江戸っ子、大名、公家、王様、お姫様等
- その他：宇宙人、ロボット等



その他の属性

- 定延 (2006) の「発話キャラクター」
- 郡 (2006) の「口調」の研究(「宝塚口調」「講義口調」「アナウンサー口調」「歌舞伎口調」「狂言口調」「電話口調」「ナレーター口調」等)
- 話者の性格印象(外向性、情緒不安定性、経験への開放性、勤勉性、協調性) 柏木繁男 (1999) 「性格特性5因子論 (FFM) による東大式エゴグラム (TEG) の評価」『心理学研究』69:6, 468-477.等



役割語の言語面： 日本語で特に重要な要素



- 人称代名詞(特に1人称): わたし、わたくし、あたし、あたい、わて、わし、わい、あちき、あっし、おれ、おれさま、おら、おいら、ぼく、ぼくちゃん、うち、われ、拙者、それがし、まろ、朕 等
- 断定表現: だ、です、である、でございます、でございます、でござす、でござわす、でござんす、でやす、でやんす、でありんす、じゃ、や、でおます、だす、どす、にて候、なり 等
- 終助詞: わ、よ、ね、のう、ぜ、ぞ、わい 等



役割語の言語面：語彙

- (狭義)敬語(尊敬語、謙讓語、丁寧・丁重語)の使用・不使用、また敬語の段階。
- 美化語、雅語、卑語の使用・不使用
- 漢語、外来語の使用頻度
- (上項と関連するが)専門用語、業界用語、ジャーゴン、略語等の使用・不使用
- 感動詞、笑い声、生理音等



役割語の言語面： 文法・語法

- 助詞の省略・非省略：「水がほしい」vs. 「水φほしい」等。
- 言いさし表現の使用：「あたし……うれしくて……」等
- ピジンの特殊語法：「時間無いアル、早く払うヨロシ」等



役割語の言語面：音声

- 音便、母音融合、音素の脱落・挿入等：
「分かんない」「知らねえ」「赤っ恥」「そりゃあそうだ」、「行くのだ」vs.「行くんだ」等
- アクセント、イントネーション
- テンポ、雄弁さ
- 声質：咽頭のゆるみ、緊張等。Cf. 勅使河原 (2006)「善玉1型・2型」「悪玉1型・2型」



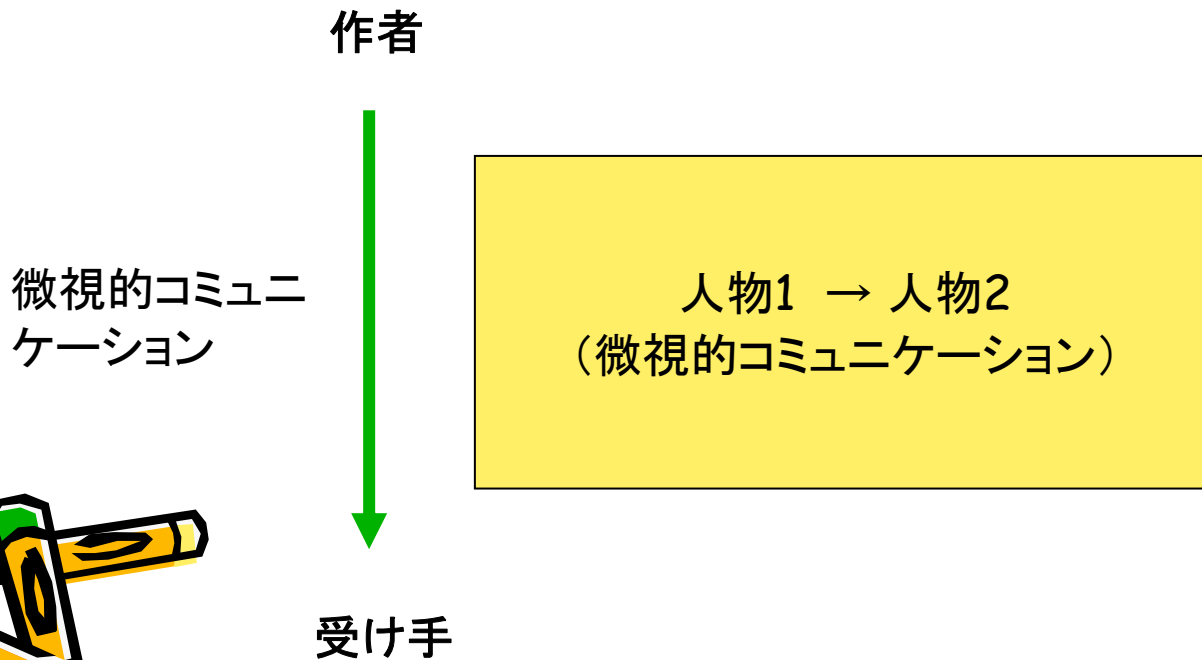
役割語の言語面： 運用・ディスコース

- 命令形の使用・不使用：「やめろ」「やめてくれ」cf.「やめて」「やめてちょうだい」
- 講義的口調の有無
- 感嘆文の使用の多寡
- 話題の選択権 等々



コミュニケーションと役割語 (1)

- 山口(2006)の「巨視的コミュニケーション」と「微視的コミュニケーション」



コミュニケーションと役割語 (2)

- メタ・コミュニケーション
コード・スイッチング、スタイル・スイッチング
(標準語・方言の切り替え、丁寧体・普通体の切り替え等)
cf. 「ぼく」「おれ」の選択・切り替え



コミュニケーションと役割語 (3)

- コミュニケーションにおける「遊び」
定延(2006)「発話キャラクター」「キャラ助詞」
“おもちゃ方言”
携帯メールにおける絵文字、小文字の使用(例「かおり」)



言語イデオロギーと役割語

- 文化的ステレオタイプとしての役割語→規範として人々の言語使用や属性への評価に制約を与え得る

ex. 黒人奴隷のことばの翻訳
中国人の〈アルヨ言葉〉



黒人ことばは東北方言で翻訳される


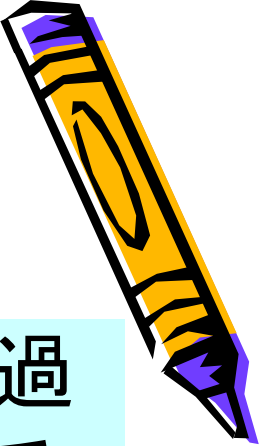
- *Gone with the Wind*
“Thank you, Dilcey,
we’ll see about it when
Mother comes home.”
“**Thankee, Ma’m. I
gives you a good night,**”
said Dilcey...
(Warner Books, Inc.,
1993, p. 66)
「**ありがとうございます。
お嬢様、では、おやすみな
せえまし**」
(translated by Y. Okubo,
1953)



中村 (2006)より:「女学生ことば」の創生

- 「女学生ことば」の成立は、(1)性別化、(2)選択、(3)否定、(4)セクシュアリティ化の四つの過程に区別することができる。(p. 124)
- 1. 性別化—書生言葉の使用を否定することで学生を性別化する
- 2. 選択—「てよ・だわ言葉」と西洋語を女子学生の表象として選ぶ
- 3. 否定—「てよ・だわ言葉」を軽薄さの表象におとしめる
- 4. セクシュアリティ化—「てよ・だわ言葉」を性の表象にする。





「女学生ことば」の創生は、当時の政治過程と密接な関係にあった。作家による「てよ・だわ言葉」の選択は、「女学生ことば」が正統な国語として認められる道を阻み、ジェンダー化された「男の国語」の創生を補強する。この意味で、「女学生ことば」の構築は、性別化された国民化を言語の側面からうながした政治的過程であった。
(中村 2006: 134)

最後に

役割語は、言語はもちろんのこと、心理、社会、歴史、文学等さまざまな領域に広がる問題であり、広い観点からアプローチすることによって新たな展開が期待される研究領域である。役割語をキータームとして、さらに学際的なネットワークを広げていきたい。





おしまい

ありがとうございました。

